

## 第二次大戦の日本の行動（その2）

## 戦前の作戦シナリオ

01602334 松山大学 湊 晋平 MINATO Shimpei

まえがき

現代において正統な戦略分析の形態で戦争未来書が出版されていることが注目される。小山内(1)は明治以降、1968年までに日本で平行された480冊余の戦争未来記を取りあげた稲生(2)の論文を紹介している。

第2次大戦の日本の主敵であった米国との戦争未来記は最大のテーマで特に日露戦争後のほとんどは日米戦争を取りあげている。この内で見落とせないのは「太平洋戦争」(3)と「次の一戦」、「興亡の此一戦」(4)であり、実際の日米の戦争はこのシナリオに沿って進行した。

また、米日の作戦論のシナリオとして“オレンジ作戦”と“遼撃作戦”(5)がある。前者は真珠湾攻撃の奇襲、一旦御破算になったかに見えたが、やがて戦艦部隊の再建とともに戦前のシナリオに沿って展開された。後者の遼撃作戦は山本五十六の手によって破棄されたが2年後はるか大きな戦力差となった米軍相手にマリアナ海原で遼撃決戦を強いられ敗北した。

## 1. 日米戦争のシミュレーションモデル

## 1, 1 日米戦争の発端

この件についての下記の事項が挙げられる。

- シナ市場をめぐる日米の対立
- シナの民族意識向上による日シの対立・戦争
- 米国の日系移民に対する弾圧政策
- 欧米の華僑の極東への波及

## 1, 2 日米戦争の展開シナリオ

この件については次の展開シナリオが共通している。

- 初期：日本による比島、グアム島の占領
- 中期：消耗戦となり日本が掛鎖される。  
ハワイ日系人の反乱。
- 末期：米太平洋艦隊と日本の遼撃艦隊の決戦  
日本の敗戦。
- 結果：米国の比島再占領と日本の降伏。  
米のシナ市場参入制覇。

米のシナ市場参入制覇以外はシナリオ通りに実現した。

## 2. 日本の作戦計画

## 2, 1 日本の遼撃作戦

日本海軍は米海軍との決戦に全力投入して臨もうとし、艦艇航空機及び技術の向上とともに決戦海面は日本本土から、次第に遠方に変わっていったが、戦闘のみに目を奪われ、補給

海上援護、通商破壊戦などに対する配慮が不十分であった。

1920年代の決戦海面想定：小笠原以西、沖縄東部海面

1930年代の決戦海面想定：マリアナ、比島中、小笠原

1940年代の決戦海面想定：マリアナ、カロリン

マーシャル群島

## 2, 2 米国の渡洋作戦

オレンジ計画(5)に依れば対日戦争計画は

米西戦争以降作成され、パナマ運河開発や、ハワイの軍事基地整備など、第1次大戦後の海軍休日時代も一貫として進められた。日露戦争後の米国大艦隊の日本寄港や、その後の豪州方面の渡洋作戦の問題点把握や改善に大きく貢献した。

米国の作戦は大別して

- 北方経路：アラスカ→アリューシャン列島  
→千島列島
- 中央突破：ハワイ→ミッドウェー→ウェーク→マリアナ→比島奪回→沖縄→対馬・五島列島  
ハワイ→日本近海での海戦→沖縄→対馬・五島列島
- 南方経路：ハワイ→クリスマス島→ギルバード→マーシャル→カロリン→比島奪回→沖縄→対馬・五島列島

があったが、実際の戦争はb、cを混合したような形で進められた。これとともに海陸両面作戦の重要性に着目し、海兵隊を整備した(6)。

オレンジ作戦は何度も改正され、日独の接点に注意して“レインボー作戦”(1938)が作られ、これも何度も改正された。

## 参考文献

- 小山内宏、「予言太平洋戦争」、新人物往来社(1974)
- 稲生典太郎、「明治以降の戦争未来記」、国学院大学紀要7(1969)
- パイウォーター、石丸藤太訳、「太平洋戦争と其批判」、文明協会、(1926)
- 水野広徳、「次の一戦」、「興亡の此一戦」、水野広徳著作集3、雄山閣、(1995)
- エドワード ミラ、沢田博訳、「オレンジ計画」、新潮社(1994)
- 野中郁次郎、「アメリカ海兵隊」、中公新書、(1995)

## 日米戦争シナリオ(その1)

著者 題名 出版年	バイウォーター 太平洋戦争 (1925)	水野広徳	
		次の一戦 (1915)	興亡の此一戦 (1932)
戦争の発端	シナ市場における日米の相克	米の対シ反日煽動 米国旗艦謎の爆沈	満州事変 対シ反日煽動
シナリオ	1930,3~1933,2 (35ヶ月) パナマ運河爆破(1930,3) グアム島比島占領(1930,3) ロシアの対日干渉 日シの戦争, 日本封鎖 ハワイの叛乱 ヤップ島沖海戦(1932,11) 米, 比島奪回 日米講和	1920年代夏, 短期 グアム島占領 比島占領難渋 米, 小笠原占領 比島沖大海戦 日本前半勝つも後半 兵力不足で全滅	1930年代中期, 長期間 グアム, 比島占領 ハワイ攻撃, 相打ち 東京空襲 経済封鎖 満州の正体 決戦へ出撃
結果	南洋委任統治権を米国へ	一流国から東亜の 小日本国に転落	未決

## 日米戦争シナリオ(その2)

	オレンジ作戦 (1906~1941)	実 際
戦争の発端	米国アジア政策と日本の反発	シナ事変の拡大, 対日経済制裁 米の欧州戦線への参加意思
戦争の内容	・海軍の戦争を第一義に想定 ・艦隊決戦から水陸両用作戦 ・経済封鎖の消耗戦の後, 日本戦力を撃滅 マーシャル群島占領 3ヶ月 沖縄攻撃 10ヶ月 五島攻撃 19ヶ月 対馬攻撃 20ヶ月	グアム, 比島占領 (1941,12~1942,4) ミッドウェイ海戦 (1942,6) ソロモン海戦 (1942,8~12) マリアナ海戦 (1944,6) 比島沖海戦 (1944,10) 沖縄玉砕 (1945,6) ソ連参戦・原爆 (1945,8)
結果		朝鮮独立, 台湾を返還 樺太, 千島をソ連が略奪